



保健センターだより ⑦76-2855

産後ケア事業をはじめました！（美里町子育て包括支援センター）

日々の育児の中で、ご自身をいたわる時間を取ることや、誰かにサポートしてもらうことが難しいかたのために、町と委託契約した医療機関・助産所で、助産師などによる産後ケア事業を実施しています。

『宿泊型』『日帰り型（デイサービス）』『訪問型』から選ぶことができ、ご自身のからだのケアや育児・授乳の相談を受けることができます。ぜひ、ご利用ください。

利用できるかた

次のいずれにも該当する必要があります。

- ・美里町在住の産後1年未満の母子
- ・産後、心身の不調や育児不安のあるかた
- ・家族から十分な家事、育児の支援が受けられないかた



宿泊型	母子の体調にあわせて、医療機関や助産所で、専門的なケアを受けることができます。
日帰り型	
訪問型	助産師などが自宅に訪問し、休息の支援や育児サポートを受けることができます。

※ご利用のケア内容によって、日数や自己負担額が異なります。

詳しくは、美里町子育て包括支援センター（保健センター内）へお問い合わせください。

集団検診

胃がん検診（バリウム）を実施します！（健康増進係）



【日程など】

実施日	受付時間	定員	会場
9月7日(火)～8日(水)	午前8時～9時	20名(予約先着順)	保健センター
	午前9時～10時	20名(予約先着順)	

【対象者】 40歳以上のかた

【検診内容】 胃部エックス線撮影

※胃がんリスク(A B C)検診を希望するかたは、個別に医療機関に予約して受診ください。

【予約受付】 9月3日(金)まで(土日・祝日・振替休日を除く)

電話または保健センター窓口にて受付(午前8時30分～午後5時15分)

【持ち物】 胃X線検診(バリウム)受診券(4月に発送済)

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、受診人数を制限しています。

受診する際の注意事項

- ・マスクの着用をお願いします。
- ・受診当日、来所前に体温を測定していただき、37.5℃以上の発熱や風邪症状のある場合は受診をご遠慮ください。



町長コラム 第150号

7月号コラムは、どうしても入れたいコロナ記事を掲載するため、町長コラム枠を差し替えました。思えば、就任した年度の2月から、これまで休まず続けてきました。広報紙を見ていただいている皆様をはじめ、本紙に関わるすべてのかたに改めて御礼申し上げます。

さて、新型コロナウイルスの1回目の緊急事態宣言が出されてから1年半になるとうとしています。政府の切り札はワクチン接種で、「12歳以上の希望者への接種を11月中には終わりにしたい」と言っています。ワクチンが現在のペースで供給されれば、医師会や薬剤師会の皆様のご協力により、我が町でも11月中には何とかなるのではというところまで来ています。

しかし、ワクチン接種は、あくまでもご本人の意思です。そもそも病気などで接種できない人、副反応などを心配する人がいると思います。そのため、全体の1～2割の人が接種できない、あるいは希望しない人であると考えています。また、「2回の接種をしても感染した」との報道もあり、インフルエンザワクチンと同様、接種していれば重傷化しにくいと理解することもできます。

現在、11歳までのワクチンは許可されていま

身馴川公園の廃止と新たな公園整備②

せん。人口の2割の人が接種しないと仮定すると接種率は約74%です。こう見ると、元の生活に戻るには、特効薬の普及でインフルエンザと同等の扱いとなるまで、感染対策を続けることになるのではと心配しています。

さて、6月号コラムに掲載した身馴川公園の売却に議会の同意がいただけたため、9月末で身馴川公園を閉園させていただきます。長い期間ご利用いただき、誠にありがとうございました。新たな公園として、農村公園の再整備と水殿瓦窯跡を史跡公園とするため、必要な手続きを進めます。

売却額は、地上にあるものの撤去費を含め、1億9,580万円です。過去、公共工事で発生したコンクリート製品などを一時ストックし、その上に土を盛ったことが分かっていますので、通常の土地売買どおり、この処分費は実費で精算することにしました。議会でも質問がありましたが、事前調査には多額の費用がかかるため、工場造成時に発生したものを精算することにしましたところでした。

この事業により、Y K K A P 株式会社が町にとどまるとともに、売却費を使い新たな公園を整備しますので、ご期待ください。

美里町文化財ガイドブック2

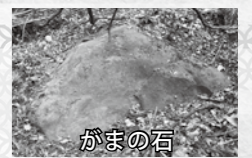
美里町の昔ばなし

2 がまの石と坂上田村麻呂

関字川輪の東山に、白欠といふところがあります。その山の斜面には大きな岩石があり、岩肌が「がまの肌」に似ているといふので「がまの石」といわれ、別名「夜泣き石」とか「うなり石」とも呼ばれています。

昔、征夷大将軍の坂上田村麻呂が、蝦夷平定に行くときに、この「がまの石」のある場所を通りかかりました。すると、橋のたもとにうずくまって泣いている美しい女性が、目にとまりました。訳を聞いてみると「十丈ヶ淵に棲んでいる大蛇が、川輪のがまを喰い殺すので、退治してほしい。」と聞いて、早速、大蛇を退治することにしました。

天様のいわれたとおり白い玉を拾って淵に投げ込みました。すると、たちまち水がひけて大蛇が姿を現わしたので、田村麻呂はすぐさま大蛇を退治することができました。大蛇の骨は、高柳の骨波田(本庄市児玉町内)に埋めたということです。その後「がまの石」にまつわる騒ぎは収まりました。思い返すと、橋のたもとで泣いていた美しい女性は、困っていたがまの化身だったのかも知れません。



※1 がま：アズマヒキガエルなど、日本の森林や草原に生息する体長18cmほどのカエルのこと。

※2 蝦夷：古代日本の中央政権から見て東方(北関東・東北地方など)に住み朝廷に服従しなかつた人々のこと。

※3 十丈ヶ淵：身馴川(小山川)の流れがよどみ深く広くなった場所。下見玉の生野山(なまのやま)付近にあったといわれている。

※4 弁天様：弁才天(弁財天)。仏教の天部の神であるが、元はヒンズー教の河の女神であり、転じて水の神と考えられている。

※5 化身：神様や動物が人に姿を変えて現れること。

ガイドブックは美里町コミュニティセンターで無料配布(1人1冊まで)しています